



## BIOME Kobe Kanjiru (Art) 展覧会 木版画と絵付磁器 尾崎和美と川上真子の二人展「うまこゆる」のご案内

アートギャラリーのようでギャラリーではない —  
“A gallery, but not a gallery” をコンセプトにした、神戸の「BIOME (バイオーム)」(以下「BIOME」) よりご案内です。

天高く馬肥ゆる秋。  
実りを愛で、豊穡のよるこびを分かち合う季節。  
静かだった昨年、一昨年とは違い、耳をすませば聞こえてくる秋祭りのお囃子に嬉しさを感じる人たちも多いかと思えます。

さて、「うまこゆる」。  
活動拠点は違いますが、“さあ、これから” という矢先、コロナ禍に遭遇したお二人による展覧会。  
「木版木の素朴さと偶然の手技がもたらすおもしろさを大事にしたい」と語る、木版画家の尾崎和美氏。  
そして、独自の“藍”の表現で、新しい九谷焼の世界を創り出している絵付磁器作家の川上真子氏。  
想像とは違った日々がお二人の創作の糧となったのか、自然のなかの“よるこび”が素直に表現されている作品が多くみられます。

冷たさをはらんだ秋風が教えてくれる冬の存在。これからの暮らしに心の灯をともしてくれる二人展を、ぜひお楽しみください。

### 木版画と絵付磁器 尾崎和美と川上真子の二人展 「うまこゆる」

月日：2022年11月5日(土)～13日(日)

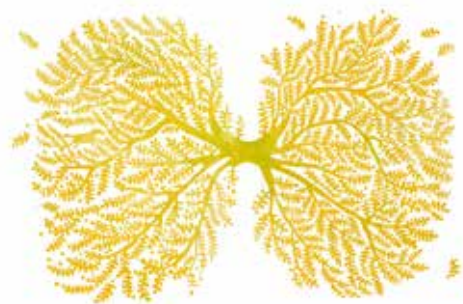
時間：変則的です。ご注意ください。

5(土)、6(日)、12(土)は、11:00-16:30

13(日)最終日は、11:00-15:00

それ以外は、13:00-18:00

休廊：水曜日



「木があること」

尾崎 和美  
Kazumi Ozaki

木版画家  
大分県生まれ、兵庫県西宮市在住

「自然からのインスピレーション、植物と人との繋がり、自然性などをコンセプトに制作しています。」

2012年木版画を主な画法とする。  
主な仕事に『骨風』篠原勝之著、『月山・鳥海山』森敦著、『余話として』司馬遼太郎著など書籍の挿画、文芸誌の表紙や挿絵など。



「双馬盃」

川上 真子  
Mako Kawakami

絵付磁器作家  
神奈川県生まれ、東京都在住

2012年石川県立九谷焼技術研修所本科卒業、  
2012年山本長左氏に師事  
2016年独立  
現在、染付を中心とした絵付磁器を製作。  
日本橋高島屋・個展、福岡岩田屋本店・  
個展、他、展示会を中心に活動中。

